

令和4年度第1回向日市障害者計画策定委員会 会議録

- 1 日 時 令和4年8月18日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 場 所 向日市福祉会館 3階 大会議室
- 3 出席者 (委員) 15名
拾井委員(委員長)、大橋委員、山本委員、久保川委員、増田委員
稲葉委員、井上委員、上田委員、清水委員、下村委員、岡田委員
辻委員、田中委員、夏川委員、桶谷委員
(事務局) 8名
山田市民サービス部長、安田副部長
岡本課長、依田主幹、宮川係長、山田担当係長、吉尾主任、藤田主査
(傍聴者) なし
- 4 内 容
 - (1) 開会
 - (2) 議事
 - ア 第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画に係る障がい者
実態把握調査について
 - イ その他

【概要】

(1) 開会

(2) 議事

ア 第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画に係る障がい者実態把握調査について

事務局から第7期向日市障がい福祉計画及び第3期向日市障がい児福祉計画策定のためのアンケート調査について、実施概要及び前回アンケート調査との変更点等の説明を行った。

<意見の要旨>

委員：今回アンケート（案）の質問の注意書きについて、民間企業は法定雇用率2.3%と明示があるが、自治体の雇用率2.6%も合わせて載せておく方がよいのではないか。

事務局：自治体の法定雇用率も記載したい。

委員：「相談相手」の質問について、相談窓口の認知度を問う選択肢には基幹相談支援センターが入っているが、相談相手の質問の選択肢に入っていない理由を教えてください。

事務局：「相談相手」の質問の選択肢にも基幹相談支援センターを加えたい。

委員：必要だと思うものを3つ選択する質問で、3つに特定している理由は何か。

事務局：過去の調査と比較して、必要なものを確認するために3つとしている。もう少し多く選択できるようにして、優先順位をつけるようにすることも案としてあると思う。

委員：いくつでも答えてもらうようにするのか、順位づけにするのかなど、問題提起があったということで、どうするかは事務局に一任する。

委員：「日中在籍している場所」の質問の選択肢で「3. 特別支援学校（視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、知的障がい、病弱、身体虚弱）」とあるが、知的障がいの教育課程で学習している学校なので、このくくり方は適切ではないのではないか。

事務局：括弧書きを削除したい。

委員：「卒業後の志望進路」について、選択肢に「訓練」という言葉が複数出てくるが、意味合いが異なるのもう少し明確に表現を変えられないか。

事務局：通所施設なのか、就労継続支援A型・B型なのか、入所施設なのか、明確にわかるような表現に変えたい。

委員：一部の質問について、3種類のアンケートで言い回しが異なっているのが気になる。よくわからない言葉が使われているので精査してほしい。

- 委員 長：事務局で指摘のあった点を再度精査してほしい。
- 委員 長：成年後見制度の質問で選択肢に「その他」を入れてはどうか。
- 委員 「今後どのように暮らしたいか」の質問の選択肢に「病院に入院したい」というものがあるが、希望して入院できるものでもない。言い回し等を考えるべきではないか。
- 委員 長：名詞で止める等の表現にした方がいい。
- 委員 長：手帳取得に至っていない方の意見はヒアリングでカバーするということか。
- 事務局 長：前回の計画策定時も家族会や各団体にヒアリングをしているので、今回もさせていただきたいと考えている。
- 委員 長：前回の回収率は何%か？また、回収率を上げる手立ては考えているか？
- 事務局 長：18歳以上が46.4%、18歳未満が43.4%、事業所が48.0%。
回収率を上げる手立てについては何か知恵をお借りしたい。
- 委員 長：アンケートに回答して何か変わるという実感がないと回収率は上がって来ないと思う。
- 委員 長：アンケートによってこういう成果があったというものを一工夫できたらいい。今回無理なら次回でも是非反映してほしい。
- 委員 長：「地域で生活するために必要なこと」の質問の選択肢について、「障がい児教育の充実」という言葉があるが、今は「特別支援教育」という言い方をしている。
- 事務局 長：修正する。
- 委員 長：事業所用の調査票について、例えば生活介護をとってみても、重度の方を受け取る受け皿がやっぱり少ない。それをアンケートでどのように汲み取っていくのかというのが気になっている。
- 事務局 長：個別の事情等は自由記述にさせていただくことになる。
- 委員 長：「収入源」の質問について、就労継続支援A型、B型の工賃を追加してもいいのではないかと。また、複数回答にしてもいいのではないかと。
- 委員 長：就労継続支援A型、B型の収入については、事務局で検討してほしい。
クロス集計で複数回答にしてしまうと集計が非常に大変なことになるので難しいと思う。収入源という言葉は本人の収入だけを指しているのか、世帯の収入のことなのか、そういったことも分かるように注釈等が必要。
- 委員 長：「どのように働いているか」の質問について、選択肢の「就労移行支援」はない方がいい。
- 事務局 長：削除する。
- 委員 長：回答が困難な方は、代筆はOKなのか？
- 事務局 長：代筆でも大丈夫。アンケート冊子にも明記している。

- 委員：事業所用の調査票について、サービス事業所に聞く内容が多い印象なので、相談支援事業所についても何か項目があればいいと思う。
- 事務局：相談支援事業所に対してもアンケートは送付するが、個別の事情については自由記述で書いていただきたい。
- 委員長：「障害者差別解消法」の質問について、例えば総合計画や地域福祉計画のアンケート調査でもやって、両方比較していかにこの差別解消法の認知が進んでいないかということの検証も必要ではないかと思う。

イ その他

事務局から今後の会議の開催について、感染症等の影響で困難な場合において、書面開催とするのか、Zoomを利用した会議をするのかに関して、委員からの意見を求めた。

<意見の要旨>

- 委員：Zoomとは違うアプリで、オンライン会議と現地会議を複合させたことがある。
- 委員長：通信料の問題もある。委員に就任する時に、Zoomでもいいですかという確認をもらっていない。最初からそういう前提だったら、Zoomでやりますと言えるが、そうではない。
- 事務局：もちろん対面が第一だが、どうしてもない時にZoomという選択肢があり得るのかどうかを伺いたい。絶対に無理という委員の方がいらっしゃれば、できないと考えている。
- 委員長：事務局の判断に一任することとする。
ちょっと私は無理という方がいたら個別に事務局に申し出てほしい。